

平成27年度
全国学力・学習状況調査
の結果について



平成27年11月
泉南市教育委員会

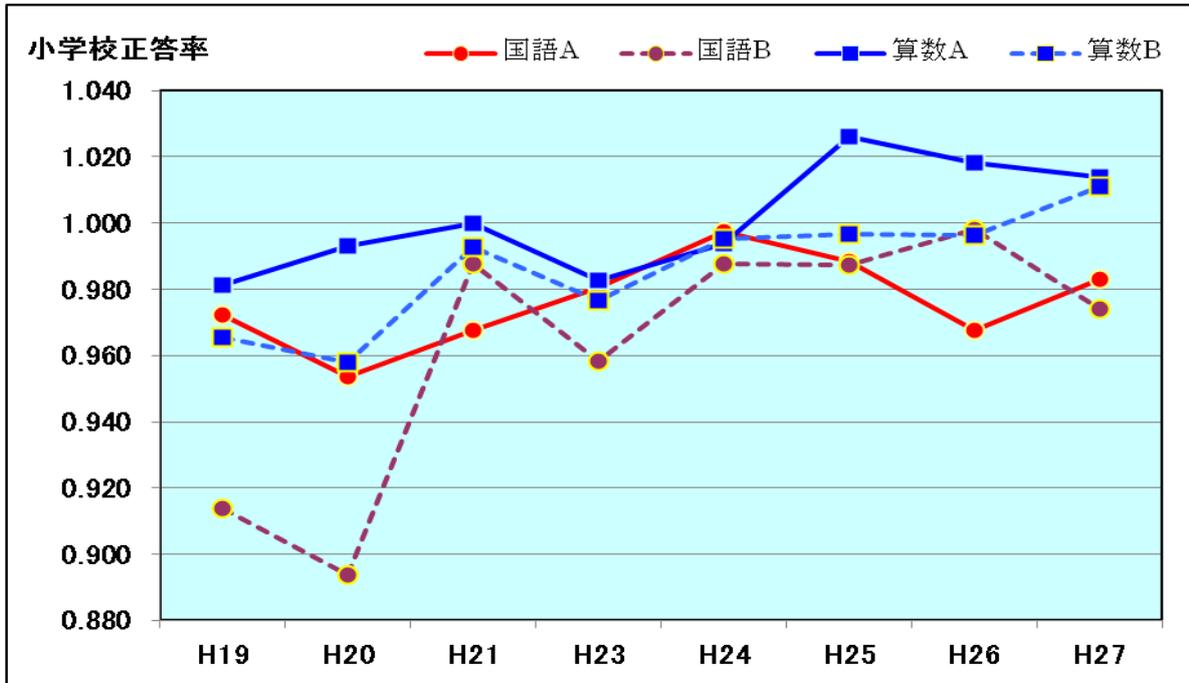
小学校の結果の概要

- 1、 経年変化の様子 対象学年は第 6 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。
 ※【理科の平成 27 年度調査結果については、校種別(小学校理科)のページに掲載】

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査					
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5	66.5	61.1
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998	0.983	0.974
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946	0.950	0.934
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6	67.6	62.7
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5	70	65.4

算数	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査					
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1	75.9	44.6
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996	1.014	1.011
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964	1.009	0.991
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3	74.8	44.1
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2	75.2	45

- 2、 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



- 小学校では、昨年に引き続き、算数 A が全国平均及び大阪府平均を上回った(0.7, 1.1 ポイント)。算数 B は大阪府平均を上回った(0.5 ポイント)。国語 A については26年と比較するとポイントがやや上昇しているが活用の力が問われる国語 B、は大阪府や全国と比べ開きが生じた。

- 3、 課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語 A	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る設問の正答率 65.7%(-8.2)
国語 B	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける設問の正答率 63.2%(-7.6)
算数 A	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求められるかどうかをみる設問の正答率 71.4%(+6.9)
算数 B	概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、理由を記述する設問の正答率 16.6%(-5.7)

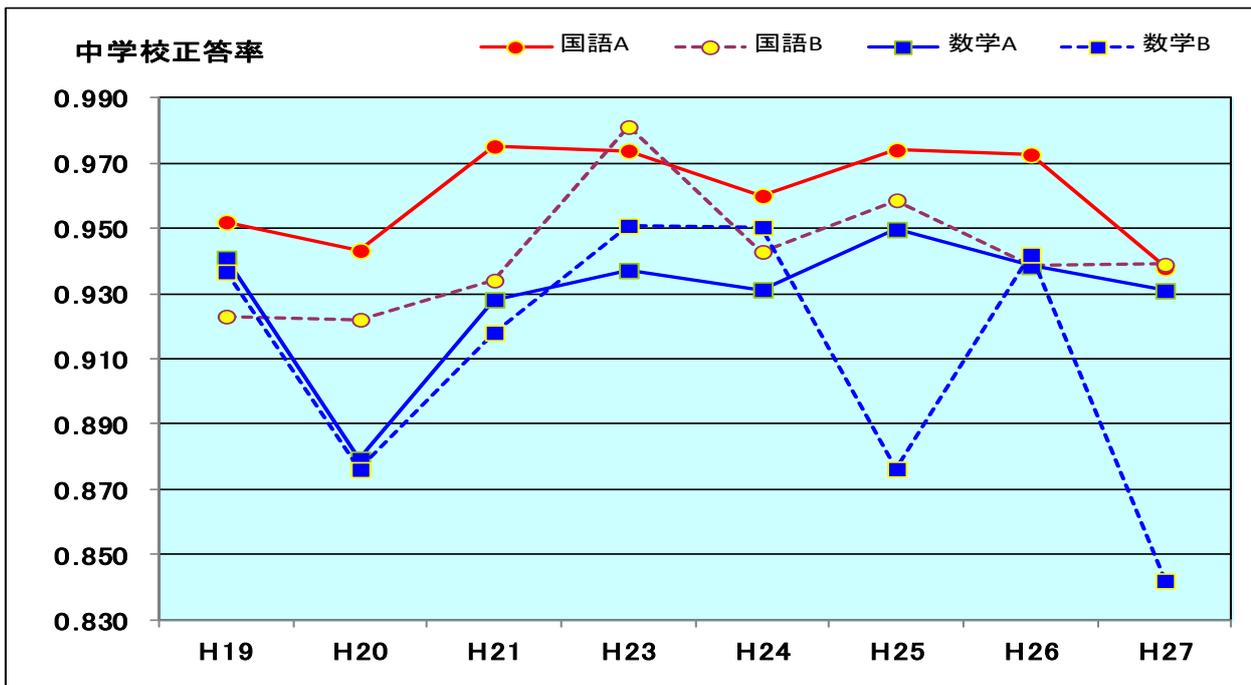
中学校の結果の概要

1. 経年変化の様子 対象学年は第 3 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。
 ※【理科の平成 27 年度調査結果については、校種別(中学校理科)のページに掲載】

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査					
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3	69.8	60.9
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939	0.938	0.939
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869	0.920	0.925
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2	74.4	64.8
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0	75.8	65.8

数学	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査					
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6	59.9	34.9
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942	0.931	0.842
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896	0.930	0.838
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9	64.3	41.4
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8	64.4	41.6

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 中学校は、2教科とも大阪府や全国の平均を下回っている。昨年に比べ、国語 A・B、数学 A についてはややポイントが下がった。また、数学 B については、ポイントを大きく下げている。

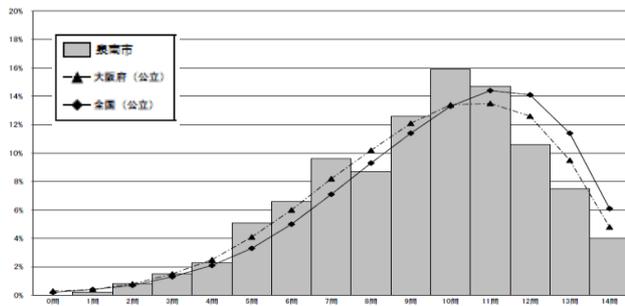
3. 課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語 A	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う設問の正答率 57.2% (-16.7)
国語 B	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く設問の正答率 23.0% (-8.1)
数学 A	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できるかどうかをみる設問の正答率 68.1% (-15.6)
数学 B	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができるかどうかをみる設問の正答率 56.1% (-11.2)

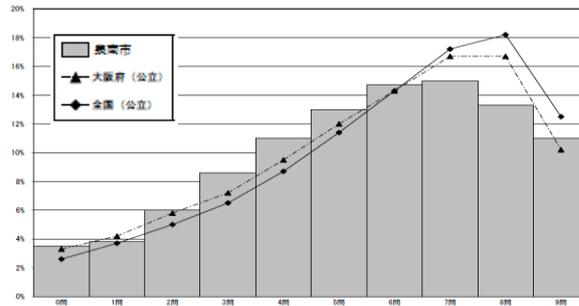
小学校 国語

A 問題の平均正答率は 66.5%、B 問題の平均正答率は 61.1%で、大阪府や全国をやや下回っている。特に B 問題についてはほぼ同じ程度まで伸びてきている。また、学力上位層が少なく、領域別では「読むこと」に依然として課題がある。

1、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



- A・B 問題とも、大阪府や全国と同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全14問)					B問題(全9問)				
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	48.9	53.0	48.9	1.000	0	-	-	-	-
	書くこと	1	85.3	86.0	85.8	0.994	6	55.8	61.1	57.8	0.965
	読むこと	4	49.2	55.2	51.7	0.952	6	65.1	68.1	65.6	0.992
	伝統的な言語文化と	9	74.1	77.2	74.9	0.989	0	-	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	4	51.0	55.4	51.6	0.988
	話す・聞く能力	1	48.9	53.0	48.9	1.000	0	-	-	-	-
	書く能力	1	85.3	86.0	85.8	0.994	6	55.8	61.1	57.8	0.965
	読む能力	4	49.2	55.2	51.7	0.952	6	65.1	68.1	65.6	0.992
	言語についての知識・理解・技能	9	74.1	77.2	74.9	0.989	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	7	61.2	66.4	62.8	0.975	3	62.8	68.6	66.2	0.949
	短答式	7	71.9	73.7	72.4	0.993	2	78.7	80.8	79.6	0.989
	記述式	0	-	-	-	-	4	51.0	55.4	51.6	0.988

- A、B 問題とも選択式の問題形式に課題が見られた。A 問題では「読むこと」の領域で正答率が依然として低く、B 問題では「書くこと」の領域で正答率が低かった。大阪府と比べても「読むこと」「書くこと」が低かった。例えば、漢字の読み書き、文法・文型の理解、文章の中から必要な情報を読み取り、内容を理解してまとめたり「見出し」をつけたりすることに課題が見られた。

3、成果と課題

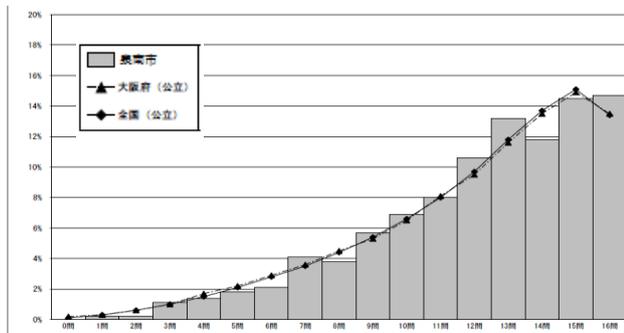
国語 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○話の内容に対する聞き方を工夫することは概ねできている。 ▲漢字の読み書きに関して書ける漢字、読めない漢字などにムラがある。 ▲登場人物の相互関係を捉えたり、必要な情報を読み取ったりすることに課題がある。
国語 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の気持ちの変化を想像しながら読むことができている。 ▲目的や意図に応じ、新聞の割り付けや記事に見出しをつけたりすることに課題が見られる。

小学校 算数

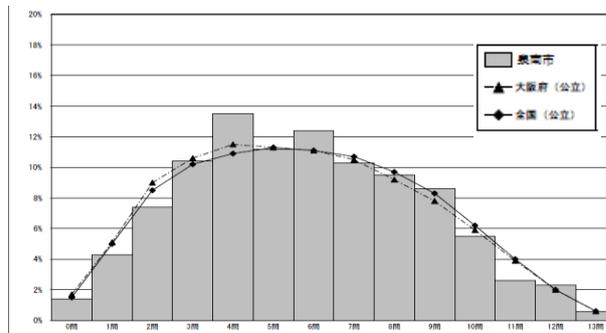
A 問題の平均正答率は 75.9%、B 問題の平均正答率は 44.6%で、A 問題の正答率については、全国・大阪府の平均を上回っている。活用の力が問われる B 問題は、府の平均をわずかに上回っており、全国との差も縮まっている。

1、正答数分布

<A 問題>



<B 問題>



- A・B 問題とも、大阪府や全国と同じような傾向であるが、A 問題は上位層が増え、B 問題は学力上位層が比較的少なく、その分、中位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全16問)					B問題(全13問)				
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と計算	7	82.1	80.1	80.4	1.021	4	40.3	42.4	40.7	0.990
	量と測定	3	69.5	71.3	69.7	0.997	3	40.9	41.7	41.6	0.983
	図形	4	66.2	64.5	64.8	1.022	7	46.4	45.6	44.7	1.038
	数量関係	2	83.5	84.9	83.2	1.004	3	42.2	43.0	42.8	0.986
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	-	-	9	34.9	35.3	34.4	1.015
	数量や図形についての技能	7	77.8	77.2	76.9	1.012	2	57.8	58.7	58.6	0.986
	数量や図形についての知識・理解	9	74.5	73.6	73.2	1.018	2	75.2	74.9	73.2	1.027
問題形式	選択式	5	70.3	70.5	69.4	1.013	3	70.1	70.6	69.0	1.016
	短答式	11	78.5	77.3	77.3	1.016	5	41.8	42.2	41.7	1.002
	記述式	0	-	-	-	-	5	32.1	32.5	31.5	1.019

- A 問題では特に「数と計算」をはじめ、ほとんどの領域で府の平均正答率よりも高く、前年度調査に引き続き、全国平均を上回る正答率を維持した。B 問題では「数量関係」領域で課題が見られた。

3、成果と課題

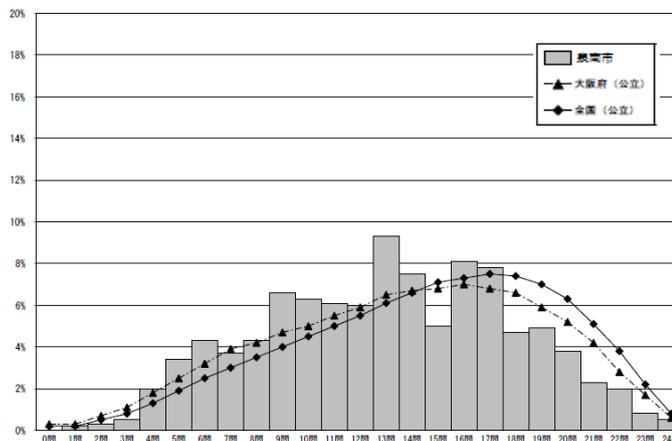
算数 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な問題については各領域において理解できており、各校での日々の取り組みの成果が表れたと考えられる。 ▲「量と測定」の分野で 180 度を超える角の大きさについての捉え方や理解に課題が見られる。
算数 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての問題形式において府の正答率を上回った。 ▲示された情報をもとに筋道を立てて考え、概数を求めたり、分割された二つの図形が等しくなる理由を言葉や式を用いて記述する設問について課題がある。

小学校 理科

平均正答率は 54.6%で、全国・大阪府の平均を下回っている。A 区分（物質・エネルギー）、B 区分（生命・地球）とも全国との開きが見られた。

1、全国学力調査結果【理科】と 正答数分布

理科	全国学力調査
	H27
	小学校
泉南市	54.6
対府比	0.952
対全国比	0.898
大阪府	57.3
全国	60.8



○ 大阪府や全国と比べ、中下位層が多く上位層が少なくなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	問題(全24問)					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	
			本市	全国	大阪府		
枠組み	主として「知識」に関する問題	9	52.5	61.3	56.7	0.926	
	主として「活用」に関する問題	15	55.9	60.5	57.7	0.969	
学習指導要領の区分等	A区分	物質	7	51.1	57.4	53.2	0.961
		エネルギー	6	60.7	65.6	63.0	0.963
	B区分	生命	6	53.8	61.2	57.6	0.934
		地球	7	51.6	57.8	53.8	0.959
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0	—	—	—	—	
	科学的な思考・表現	15	55.9	60.5	57.7	0.969	
	観察・実験の技能	5	46.1	55.5	50.5	0.913	
	自然事象についての知識・理解	4	60.5	68.6	64.4	0.939	
問題形式	選択式	18	57.8	62.9	60.3	0.959	
	短答式	3	50.3	63.6	55.7	0.903	
	記述式	3	39.9	45.3	41.3	0.966	

○ 「観察・実験の技能」の観点で正答率が低く、問題形式では「記述式」で特に正答率が低かった。例えば示された器具（顕微鏡）の名称を書く問題や水が水蒸気になる現象について、その名称を書く問題で無回答が目立った。

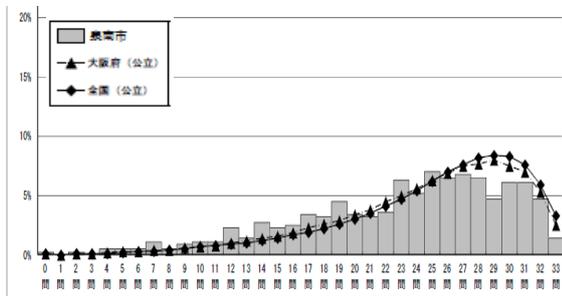
3、成果と課題

理科問題	<p>○予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる問題については、全国・大阪府平均を上回っていた。</p> <p>▲示された器具の名称を書く問題に誤答や無回答が多く見受けられた。</p>
------	---

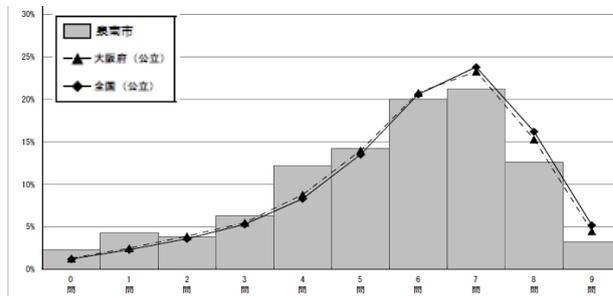
中学校 国語

平均正答率は、A問題で69.8%、B問題で44.3%となっており、大阪府や全国を下回っている。領域別では、特に「書くこと」に課題がある。中でも、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書いたり、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

1、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○A・B問題とも、大阪府や全国とほぼ同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分中・下位層が多くなっている。その傾向は小学校以上に顕著になっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全33問)					B問題(全9問)				
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	73.1	79.7	78.0	0.937	3	68.8	72.2	71.5	0.962
	書くこと	5	65.9	73.6	71.1	0.927	3	30.7	36.7	35.4	0.867
	読むこと	5	81.0	86.1	86.0	0.942	6	56.9	62.6	61.5	0.925
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	67.1	72.9	71.4	0.940	0	-	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	30.7	36.7	35.4	0.867
	話す・聞く能力	4	73.1	79.7	78.0	0.937	3	68.8	72.2	71.5	0.962
	書く能力	5	65.9	73.6	71.1	0.927	3	30.7	36.7	35.4	0.867
	読む能力	5	81.0	86.1	86.0	0.942	6	56.9	62.6	61.5	0.925
	言語についての知識・理解・技能	19	67.1	72.9	71.4	0.940	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	23	69.2	75.5	73.9	0.936	6	76.0	80.3	79.5	0.956
	短答式	10	71.0	76.7	75.5	0.940	0	-	-	-	-
	記述式	0	-	-	-	-	3	30.7	36.7	35.4	0.867

○ A、B問題とも「書くこと」の領域での正答率が低かった。問題形式では、B問題の「記述式」に課題が見られた。対府比が最も低かったのは、表現の工夫について自分の考えをもつという、設問であった。

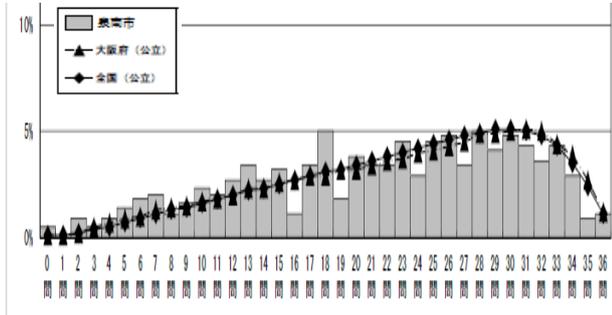
3、成果と課題

国語 A 問題	○単語の類別や品詞について理解するのは、概ねできている。 ▲「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」とことと「代表的な古典の作品に関心をもつ」ことに課題がある。
国語 B 問題	▲「表現の工夫について自分の考えを持って読む」ことに課題がある。 ▲問題形式では、「記述式」に課題があり、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書いたり、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くという設問についても課題が見られる。

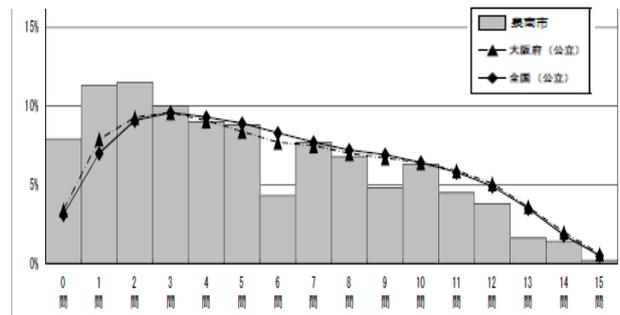
中学校 数学

平均正答率は、A 問題で 59.9%、B 問題 34.9%で、大阪府や全国を下回っている。A 問題・B 問題ともに全領域でポイントが府や全国より下回っており、課題は少なくない。中でも昨年度同様、記述式の問題で課題が見られる。

1、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○ A・B 問題とも、概ね同じ傾向であるが、学力上位層や中位層が少なく、その分下位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全36問)				B問題(全15問)					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	12	61.7	67.7	67.5	0.914	4	54.4	63.2	62.3	0.873
	図形	12	58.8	63.4	63.1	0.932	4	33.1	39.0	39.6	0.836
	関数	8	59.4	61.7	62.1	0.957	5	24.8	30.7	30.8	0.805
	資料の活用	4	59.2	63.0	62.3	0.950	2	24.8	31.2	29.7	0.835
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	0	-	-	-	-	13	36.1	42.8	42.5	0.849
	数学的な技能	17	59.1	65.0	64.7	0.913	2	26.8	34.2	34.0	0.788
問題形式	数量や図形などについての知識・理解	19	60.7	63.9	63.8	0.951	0	-	-	-	-
	選択式	19	61.3	64.6	64.6	0.949	4	40.8	47.9	48.0	0.850
	短答式	17	58.5	64.2	63.9	0.915	4	39.1	47.4	46.9	0.834
	記述式	0	-	-	-	-	7	29.1	34.8	34.5	0.843

○ A 問題では「数と式」領域で正答率が低く、B 問題では「関数」領域で特に正答率が低かった。例えば A 問題で、計算のきまりにしたがって計算する問題や、B 問題では、与えられたグラフと調査結果から、事象に即して解釈する問題を苦手と感じる生徒が多かった。

3、成果と課題

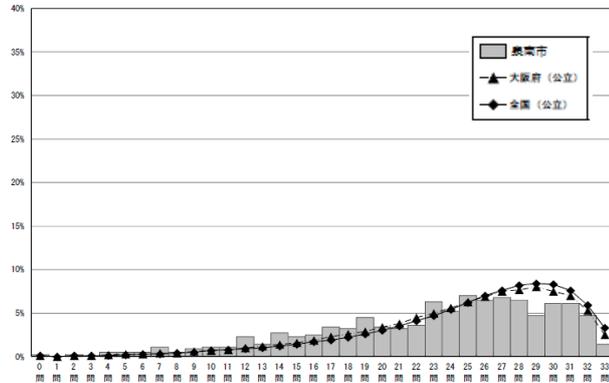
数学 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる」ことに課題がある。 ▲「空間における直線と平面の垂直について理解する」ことに課題がある。
数学 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲「与えられた式を基に、事象における 2 つの数量関係が比例であることを判断する」ことに課題がある。 ▲「問題場面における考察の対象を明確に捉える」ことに課題がある。

中学校 理科

平均正答率は、47.7%で大阪府や全国を下回っている。全領域でポイントが府や全国より下回っており、課題は少なくない。中でも記述式の問題で課題が見られる。

1、全国学力調査結果【理科】と 正答数分布

理科	全国学力調査
	H27
	中学校
泉南市	47.7
対府比	0.938
対全国比	0.900
大阪府	50.8
全国	53.0



- 全国・大阪府とも、概ね同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分中下位層が少なくなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	問題（全25問）					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	
			本市	全国	大阪府		
枠組み	主として「知識」に関する問題	7	58.6	63.8	60.8	0.964	
	主として「活用」に関する問題	18	43.4	48.8	46.9	0.925	
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	7	46.2	48.9	47.7	0.969
		化学的領域	7	49.0	56.2	54.5	0.899
	第2分野	生物的領域	6	54.4	62.2	58.2	0.935
		地学的領域	6	43.0	46.4	43.9	0.979
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	
	科学的な思考・表現	18	43.4	48.8	46.9	0.925	
	観察・実験の技能	2	40.6	46.8	46.6	0.871	
	自然事象についての知識・理解	5	65.8	70.6	66.5	0.989	
問題形式	選択式	16	48.2	53.1	51.8	0.931	
	短答式	4	57.4	61.6	57.4	1.000	
	記述式	5	38.2	45.8	42.3	0.903	

- 「観察・実験の技能」の観点で正答率が低く、問題形式では「記述式」で特に正答率が低かった。例えば「特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求める」問題や「キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する」問題で無回答が目立った。

4、成果と課題

理科問題	<ul style="list-style-type: none"> ○問題形式の「短答式」では、大阪府の平均正答率と同率だった。各校での日々の取り組みの成果が表れたと考えられる。 ▲生物的領域の「消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ」問題で全国・大阪府と比べ、正答率に大きな開きが見られた。
------	---

生活習慣や意識に関する調査(児童生徒質問紙調査)の結果

主な項目	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
朝食を毎日食べている	91.9	93.6	95.6	86.2	90.7	93.5
毎日同じ時刻に寝ている	78.0	74.7	79.5	68.2	72.8	75.2
毎日同じ時刻に起きている	88.6	88.3	91.0	86.1	90.4	92.1
物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある	93.9	93.7	94.5	91.4	93.0	94.2
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	78.0	74.5	76.4	70.0	68.1	68.8
自分にはよいところがある	66.3	73.3	76.4	62.7	63.5	68.1
将来の夢や目標を持っている	84.7	84.5	86.5	70.9	70.0	71.7
テレビゲームをする時間が1時間以上ある(月～金)	62.2	58.3	54.6	64.4	60.1	57.8
携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間以上ある(月～金)	21.0	21.0	16.9	59.1	53.9	47.6
学校の授業時間以外に1時間以上勉強する(月～金、塾・家庭教師含む)	50.8	54.7	62.7	65.3	66.7	69.0
学校の授業時間以外に1時間以上読書する(月～金)	15.8	16.6	17.6	12.3	12.8	15.0
家の人と学校での出来事について話をする	74.9	78.0	79.5	66.6	72.0	73.7
家で自分で計画を立てて勉強する	53.2	52.9	62.8	49.8	48.1	48.8
学校に行くのが楽しい	84.3	85.2	87.0	78.8	79.9	82.1
地域の行事に参加している	56.6	57.0	66.9	36.6	35.7	44.8
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	96.5	95.4	96.2	94.5	92.5	93.7
国語の授業の内容はよく分かる	75.8	80.2	82.0	78.0	73.5	74.3
算数(数学)の授業の内容はよく分かる	77.9	80.0	81.0	73.0	71.1	71.6
理科の授業の内容はよく分かる	80.6	82.5	87.9	60.7	62.9	66.8

「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

今年度実施している学力向上のための取組み

少人数指導・習熟度別指導の実施

各校に加配されている教員を中心に、学校の実態に合わせて少人数指導・習熟度別指導を実施。一斉授業では比較的難しい個に応じたきめ細かな指導を進めている。教科は、国語、算数・数学、英語で実施。単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等の体制をとっている。

小学校における専科指導教員の配置

中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む一助となっている。H24～26年度は信達中学校区で、H27年度は、西信達小・一丘小において、英語科教員が高学年の外国語活動の授業に入り、学級担任とともにチームティーチングの形で授業を展開。児童の外国語への興味・関心が高まり、中学校での英語学習の素地が育成されている。

スクール・エンパワーメント推進事業の実施

大阪府教育委員会のスクール・エンパワーメント推進事業を活用し、加配教員が中心となって、学校活性化に向けた取組みを進める。組織的・計画的に日々の授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などの取組みを進めている。H25～27年度は、一丘中学校で実施している。

退職校長、指導主事による若手教員の育成

退職校長や市教委指導主事が、各学校を訪問し、経験年数の少ない若手教員の育成にあたっている。授業づくりだけでなく、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等についてアドバイスを行っている。

豊かな人間性をはぐくむ取組み推進事業

大阪府教育委員会の事業を活用して、中学校区における道徳教育公開講座の開催や、道徳の授業づくりに関する研修会を実施している。また、「こころの再生」府民運動と関連した取組みを中学校区を単位に地域と共に推進することで、地域の中で自分が大切にされているという喜びを感じさせ自己肯定感を高めるとともに、道徳教育の充実により思いやりなどの道徳性を育てている。H25～27年ですべての中学校区で実施している。

学力向上に向けた重点課題

＜教育委員会の取組み＞

○教員一人ひとりの授業力向上

経験年数の少ない教員が増える中、更なる授業研究・授業力向上が必要である。教員をサポートできる研修会の実施、授業研究における支援や助言、組織的・計画的な校内研修のサポート等、大阪府教育委員会と連携しながら教員一人ひとりの授業力向上をめざす。

○小中連携の推進

小中9年間を見通した取組みを構築するために、小中全教職員で中学校区での取組みの交流を進める。学力向上については、担当者を集め、実践報告および中学校区での実践交流を行い、学力調査から見える課題と成果の共有を進める。

○家庭学習の推進

家庭学習の推進のために、児童生徒、保護者向けの「家庭学習の手引き」を作成・配付し、小中9年間を通して自ら学ぶ習慣をつける。

○読書活動の推進

学校・家庭における読書の習慣化に向けた取組みを進める。

＜各学校の取組み＞

○学力向上に向けた課題や取組みを全教職員で共有する

全国学力・学習状況調査における成果と課題を踏まえた学力向上の取組みを全教職員で共有し、授業改善を図る。

○「めあて・課題」を明確にした授業の徹底

「めあて・課題」を目に見える形で示し、一時間の終わりには、それが達成できたかどうかを振り返る時間を確保する。何を学ぶか、そしてそれが学べたかどうかを明確にし、一人ひとりの学びを確かなものにする。

○基礎基本の学力をつけるために

一人ひとりのつまづきを把握し、朝学習や放課後学習等、授業以外の時間を有効に活用し、基礎基本の学力をつけるための取組みを更に充実する。